

グループホーム ふれあい家族の家 認知症高齢者グループホーム外部評価結果

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	○理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。	○			
2	○理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。	○			
3	○グループホームでの生活空間づくりの工夫 室内は明るく清潔感が保たれ、季節の花々が季節感を醸し出し、入居者が好きな場所で寛ぐ事ができるように椅子やソファを置き居場所を確保しています。又、玄関ホールとの間に目隠しをしたり、衝立をつかったり、畳のコーナーにはすだれを掛け生活環境を整えるよう工夫しています。入居者個々の状況に対応したいとテーブルや椅子を配置換えする等、その時々へ工夫しながらの生活支援となっています。				
4	○気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。	○			
5	○家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。	○			
6	○くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。	○			
7	○居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。		○		
8	○入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり	○			
9	○認知症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。	○			
10	○落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。	○			
11	○入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 入居者の状態や行動を把握し、自立支援を目標に一人ひとりに合ったサービスを目指しています。困難事例には家族や専門医と相談しながら再アセスメントをし、その人らしさを大事にしたケアを行っています。本人の意向を重視しながら家族の意向も反映できるように取組まれています。残存能力を最大限に活用していきたいと、生活リハビリとして歩行練習や料理への参加又音楽療法等入居者の今何が出来るか把握し、出来る事は積極的にやってもらい、出来ない事は必要に応じて支援するよう工夫したケアとなっています。				
12	○個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。	○			
13	○介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。	○			
14	○職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にしている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。	○			
15	○入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	○			
16	○職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で接している。	○			

グループホーム ふれあい家族の家 認知症高齢者グループホーム外部評価結果

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	○入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		○		
18	○入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。	○			
19	○自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。	○			
20	○身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。	○			
21	○入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。		○		
22	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。	○			
23	○家庭的雰囲気のある食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。	○			
24	○一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。	○			
25	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			
26	○希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。	○			
27	○希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。	○			
28	○プライドを大切にしたい整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。	○			
29	○細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。	○			
30	○主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。		○		
31	○ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。	○			
32	○口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないように、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。	○			
33	○身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。	○			
34	○服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。	○			
35	○緊急時の対応体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。	○			

グループホーム ふれあい家族の家 認知症高齢者グループホーム外部評価結果

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	○地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。		○		
37	○入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。	○			
38	○入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。		○		
39	○事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。	○			
40	○入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。		○		
41	○事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。	○			
42	○入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。	○			
43	○地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。		○		
44	○地域社会への貢献 認知症理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。	○			
45	○ホーム全体の雰囲気 春にはツバメが巣をつくり、初夏にはカエルの歌が聞こえる田園風景の広がる緑豊かな自然の中、グループホームの敷地内には通所介護オレンジハウスとコミュニティスペースを持ち、オレンジ色の屋根で統一された明るいホームです。玄関を中心として東棟と西棟の2ユニットの入居者が田んぼのあぜ道を散歩したり、手入れの行き届いた中庭を見ながら日向ぼっこしたり自由な生活があり、押し付けることなく、入居者のペースでの生活支援を念頭にいた職員のケアを見ることが出来ました。				
46	○総括的な評価 認知症高齢者に対する深い理解に基づいた理念をもとに、入居者本位のケアを目指し、入居者・家族が安心していただけるよう努力されている事や現状に甘えることなく常に高いケアの質を求め、改善意識をもった姿勢で臨まれていることがユニット毎に出されている自己評価に現われています。入居者一人ひとりの“その人らしさ”や入居者の声を引き出し、のんびりと穏やかに過ごしていただきたいと努力されています。自己評価から見出された課題を一つずつクリアしていただきたいと思います。認知症専門医師による職員の勉強会も開設以来より継続されており、ふれあい便りの中にコラムが掲載されています。今後は地域の方々にも勉強会への参加を促したいと意欲的です。認知症に関する理解の向上のため、ぜひとも勧めていただきたいと思います。				
47	○優れている点 母体が医院であることや、往診医師の確保又隣が消防署であることなどにより、入居者や家族へは安心を与えているとともに、職員も日々「どうしたら入居者のためになるのか？」等前向きな姿勢と勉強会や研修会への参加等により知識の習得に努められています。 入居者のどんな状態・状況にも拒否することなく、職員の見守りや寄り添いのケアの実践を訪問時幾度となく垣間見る事ができました。帰宅願望が強く、日々帰り支度が整い布団を玄関に出されている入居者、日に幾度となく一人で散歩に出られる入居者等様々ですが、個々のケアであることを職員がしっかりと受止めた支援となっています。 又、1ユニット9名の入居者の違いを十分把握し、個々の支援とされていることが、ユニット毎の勤務ローテーションの違いや食事の時間帯の違い等に現われています。ユニット毎の特徴を発揮したホームとなっています。 入居者の方々の穏やかな生活、笑顔のある生活から職員のケアの確かさを感じます。				
48	○努力が望まれる点 各ユニットお互いの良いところを共有したり、職員相互の親睦会の充実やスーパーバイザーの導入など検討していただき、新規採用の職員もおられることから、個々の力量や経験に応じた勉強会や定期的に研修を積んでいけるよう組織としての体制作りを期待します。 又、地域の人々の立ち寄りが最近では少なくなっているということですので、今後はホーム行事へ招待したり、老人会や地域の行事へ参加し、関係を更に深めていただきたいと思います。				